



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 222
September
2011

トピックス

人材育成

平成23年度JICA研修
「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政
コース」実施

ADRC客員研究員 レポート

Ⅰ スリナ・ビンティ・
オスマン

Ⅰ エミン・ナザロフ

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2011

●人材育成

平成23年度JICA研修

「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政コース」実施

アジア防災センター（ADRC）は、国際協力機構（JICA）と協力し、中央アジア・コーカサス地域の防災担当行政官を対象とした研修（今年度は第8回目）を2011年6月27日から8月5日まで実施しました。中央アジア地域のカザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、及びコーカサス地域のアルメニアの計4カ国から、中央または地方政府の防災担当行政官計13名が参加し、ロシア語による研修が行われました。

本研修は、防災行政に関する基礎的な内容について、日本の防災の知識や経験、蓄積してきた技術を提供するとともに、研修参加者がそれぞれの国において兵庫行動枠組（HFA）の5つの優先行動に基づいた自国の現状と課題を分析し、より良い防災体制を構築するための改善案を策定することを目的としています。研修員は、中央政府・地方自治体・防災拠点・ライフライン・研究機関・予報機関・メディア・医療・国連機関・民間企業・NPO・国際協力機関・学校などから広範囲にわたる講義を受け、防災について学びました。また、各機関からは、3月11日に発生した東日本大震災における対応や教訓についても紹介されました。更に、住民参加型ハザードマップ作成のための「タウンウォッチング」プログラムや、四国での砂防ダムの見学などの活動も行いました。

中央アジア・コーカサス地域では、洪水、干ばつ、地滑り、地震といった災害が多く発生し、複数の国に被害が及ぶことも稀ではありません。また、冬季は積雪も多く、雪解け時期に山岳氷河が洪水を発生させることもあり、これらの国々は共通の防災課題を抱えています。帰国後、彼らが研修で学んだ知識、技術、手法を様々なプロジェクトに実践し、自国のより良い防災体制を構築していくことが期待されます。さらに、研修期間内に深めた研修員間のネットワークを、地域内の防災連携に生かしていくことも極めて重要です。なお、当研修実施にあたり、訪問等を受入れていただきました各関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



[タウンウォッチングプログラムの様子]

●ADRC客員研究員レポート**スリナ・ビンティ・オスマン (マレーシア)**

はじめまして。私はマレーシアから来ましたスリナ・ビンティ・オスマンと申します。マレーシアでは、科学技術革新省の気象庁で働いています。気象庁の主な活動としましては、軍隊や一般市民を対象にして、気象予報や情報の提供を行っています。また同様に、一般市民を含め、各種メディアや災害関連機関に対しましても、マレーシア領土内で発生する、地震、気象、それにとともなう最新の海洋情報などについても、早期警報システムを通して情報提供を行っています。この早期警報システムは、マレーシア国内の防災を取り扱う各省庁にとって、地震、洪水、地滑り、干ばつやその他災害における被害の軽減のため、非常に効果的なツールとなっています。

さて、私の現職である課著補佐の職務としましては、気象庁内における職員の人材育成として、能力向上のための訓練および研修の計画立案や実施に向けた全体的なコーディネートを担当しています。なおここで勤務する以前は、主に地震や津波発生に伴うモニタリングなどを担当していました。また、南シナ海における石油探索や開発を支援する、気象予測及び警報の発令等についても経験があります。このように、これら様々な私の業務経験は気象及び自然災害の課題に対して関心を持たせることになり、そして、現在の災害リスクの軽減や防災活動の分野での活動に繋がることになりました。

今回、ADRCの客員研究員プログラムに参加できることは私にとって大変有意義な機会になると思います。気候変動に関連する地震、津波、洪水など、様々な大規模災害を軽減させるためのリスク管理のための知識と能力の向上に繋がると思います。ここで得られる経験は、マレーシアに帰国して気象庁で業務をおこなう際に、きっと有益に働くと思います。また、先に発生した東日本大震災を経験した日本の経験及び災害対応などからも、多くのことを学ぶことができると思います。

最後に、本プログラムの参加にご支援をいただいたアジア防災センターと日本政府に感謝を申し上げたいと思います。合わせまして、このような機会を承認して頂いたマレーシア政府に対しましてもお礼を申し上げます。

**エミン・ナザロフ (アゼルバイジャン)**

はじめまして。私はアゼルバイジャンから来ましたエミン・ナザロフと申します。アゼルバイジャンでは、緊急事態省の危機管理センター (CMC) という組織でシニアアドバイザーとして働いています。CMCは緊急事態省の主要な部署のひとつで、“112-ホットライン”の通信設備を通じて、緊急事態省の他の防災関連機関と連携をとって活動をおこなっています。CMCにおけるシニアアドバイザーとしての職務としましては、アゼルバイジャン及び世界各国で発生している自然災害や人的災害に関して、様々な情報を収集および分析をして、さらに書籍の編集編纂などもおこなっています。

さて、アゼルバイジャンの地理的特徴として、広大な面積を有しています。そのため、周辺各国と比較しても、最も災害が多い国の一つとして知られています。特に、石油やガス開発における自然災害の影響や危険性というのは年々増加しています。また、アゼルバイジャンの領土はアルプス造山運動によって形成されたため、地形学的に多くの地震が発生する地域でもあります。さらに、洪水や地滑りのような他の自然災害についても、被害の危険性や課題を有しています。アゼルバイジャンはこのような環境にあるため、防災及び減災という分野において、災害管理、

続き

緊急管理システムの構築、災害リスク軽減の活動、国際協力の促進などに関心が高く、率先して取り組んでいます。

緊急事態省は大統領宣言のもと**2005年**に設立された新しい組織です。同省が設立されてから数年ではありますが、これまで効果的な能力開発事業を促進し、さらに近隣諸国対しても効果的な、災害対応の優良事例となる活動を多く取り組んで参りました。

アジア防災センターの客員研究員プログラムは私にとって、日本の防災システムの優良事例や国際機関の活動等を身近に学ぶことができる素晴らしい機会になると思います。

最後に、客員研究員プログラムの参加にご支援頂いた、アジア防災センターの職員の方にお礼を申し上げます。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。